



第401回みそか寄席

令和7年

とき 8月31日(日)

第1部：午後4時00分～

第2部：午後7時00分～

ところ おかげ横丁すし久

八月

大喜利

桂文我

竹の水仙

林家染吉

大名将棋

露の真

野ざらし

一部午後四時

大喜利

桂文我

鉄拐

林家染吉

淀五郎

露の真

鉄砲勇助

二部午後七時

木戸銭 / 前売券 2,500円 当日券 3,000円

木戸銭は開催当日の会場受付にて頂戴いたします。

会場受付は、1部2部共に開演30分前より開始いたします。

前売受付 / おかげ横丁おみやげや (総合案内)

TEL0596-23-8838 <https://okageyokocho.com>

予約方法 /

- ・おかげ横丁ホームページの予約サイトから
- ・「チケットぴあ」から
- ・イオン伊勢店、イオン明和店 サービスカウンター
- ・おかげ横丁おみやげや(総合案内)へのお電話もしくはご来店
いただいてのご予約

主催 / 株式会社 伊勢福 後援 / 伊勢市、伊勢市教育委員会

※会の性質上、中学生未満の方の入場はご遠慮いただいております。予めご了承ください。

※都合により内容が変更になる場合がございます。

みそか寄席



伊勢内宮前

みそか寄席



平成3年6月から始まった「みそか寄席」は、毎月末日のみそかに合わせて「すし久」にて開催している落語会。約30年間公演(一部19時～、二部21時30分～)し、地元松阪出身 上方落語の桂文我さんを中心に、中堅・若手の噺家が多数出演しています。

本格的な古典落語や奇想天外な新作落語、ときには珍芸も飛び出し、会場は明るい笑い声で包まれます。

これまでの特別興行では、人間国宝桂米朝師をはじめ、三代目桂春團治師・五代目桂文枝師・桂枝雀師にご出演いただきました。

会場の「すし久」は、本格木造建築で、古き良き時代の寄席情緒たっぷりの中でお楽しみ頂けます。



桂 文我 かつら ぶんが

昭和35年8月15日生まれ、三重県松阪市出身。昭和54年3月、桂枝雀に入門。桂雀司を名乗る。平成7年2月、四代目桂文我を襲名。

【落語活動】

現在、年間300回程の落語の高座をつとめる。大阪・東京・横浜・名古屋・京都・岡山・徳島をはじめ、各地で「桂文我独演会」「桂文我の会」を開催。また、子ども向きの落語会の「おやこ寄席」も各地で開催。

【その他の活動】

みえの国観光大使、松阪市ブランド大使。平成25年4月1日～相愛大学客員教授「上方落語論」講義を受け持つ。

林家 染吉

はやしや そめきち



生年月日：昭和56年9月15日

出身地：三重県

入門年月日：平成19年「林家染丸」

趣味：将棋

特技：映画鑑賞、推理小説を読むこと

露の眞

つゆのまこと



生年月日：昭和61年10月17日

出身地：三重県志摩市

入門年月日：平成20年4月23日「露の都」

特技：どじょうすくい踊り(師範)

みそか寄席三百回達成記念本

伊勢内宮前 おかけ横丁
「みそか寄席」三百回達成
— 足かけ二十五年の軌跡 —

著者：四代目 桂文我
【定価】2,000円+税

みそか寄席は、平成28年5月をもちまして、丸25年300回を数えました。舞台裏の笑い話や苦労話はじめ、今だからこそ語れる当時の秘談などで300回の歴史を辿るエピソード満載の一冊です。

おかけ横丁について

おかけ横丁は、入口にある大きな常夜燈が目印の50余りのお店が軒を連ねるひとつの町です。

第61回神宮式年遷宮の年、1993年(平成5年)7月16日に、伊勢神宮内宮の鳥居前「おはらい町」の中ほどにできました。

季節ごとの催し、伊勢路の建物の意匠と風景、こだわって選び抜いた特産品や伊勢土産、郷土料理、紙芝居や太鼓の演奏など、訪れる人に楽しんで頂いております。

